

## <令和8年2月定例記者会見>

### 1 開催日時

令和8年2月9日（月）午前10時30分～午前10時50分

### 2 場所

滝沢市役所 庁議室

### 3 来庁した報道機関

岩手ケーブルテレビジョン、岩手日報社、河北新報社

### 4 発表事項

#### (1) お仕事マッチング～滝沢の近所でお仕事探しませんか？～開催について（企業振興課）

滝沢市商工会青年部及び滝沢市商工会が主催し、市も共催する就職マッチングイベントが2月15日に滝沢ふるさと交流館で開催されます。

市内企業を中心とした24社がブース出展し、企業のお話を聞くことができます。

「近所で働きたい」、「スキマ時間を活用したい」など、希望に合った働き方を見つけてみませんか。

対象は一般・学生問いません。事前申込、履歴書不要で、参加費も無料となっておりますので、お気軽にお越しいただければと思います。

事業の周知及び取材について、よろしくお願ひいたします。

#### (2) 子ども起業体験ワークショップの開催について（企業振興課）

滝沢市周辺の小学4～6年生を対象に、本物の起業体験を提供する「子ども起業体験ワークショップ in 岩手県立大学」を開催いたします。

本イベントは、子どもたちが4～5名のチームで「会社」を設立し、オリジナル商品の企画から製造、販売、さらには決算までを1日で体験する実践的なプログラムです。

参加者は銀行員への融資交渉や、利益を出すための試行錯誤を通じて、生きたお金の流れや社会の仕組みを学びます。

講師には、文部科学省アントレプレナーシップ推進大使の佐々木大(ささきひろし)氏を迎え、運営はイノベーションセンター企業で構成された「NPO法人イノベブリッジたきざわ」が中心となります。本市においても岩手県立大学が発信している「企業学群」構想に基づき、支援しながらの開催となります。

仲間と協力して目標を達成する喜びを知り、未来の可能性を広げる場となることを目指しています。未来の経営者たちの挑戦に、ぜひご注目ください。

事業の周知及び取材について、よろしくお願ひいたします。

#### (3) 滝沢ストリートフェスティバルの開催について（道路課）

令和元年度より整備を進めて参りました「市道向新田線」の開通を記念し、特別なイベントを開催いたします。

県内の飲食・物販店舗やキッチンカーが約40店舗集まる「マルシェエリア」や、消防車や自衛隊車両などのはたらく乗り物が集まる「はたらく乗り物大集合エリア」

を展開する予定です。

また、当日には滝沢伝統さんさ踊りの披露やニュースポーツの体験、スタンプラリー抽選会などの催しも準備を進めているところです。

開通前の道路を歩けるのはこのタイミングだけです。この生まれ変わった道路で「食べて・見て・体験して、楽しい」そんな時間を過ごしていただきたいと思います。

入場無料となっておりますので、皆様お誘い合わせの上、お気軽にお越しください。イベントの周知及び取材について、よろしくお願いたします。

## 5 市発表案件について記者からの当日質問

記者：子ども起業体験ワークショップについて、定員は25名となっておりますが、現在の申し込み状況はいかがでしょう。

企業振興課総括主査：現時点で18名の申し込みがありました。周知タイミングに差があり、現在は主に盛岡市内の小学生からの申し込みが来ています。滝沢市内の学校においてもチラシを配布したため、今週から滝沢市内の小学生からも申し込みが集まるものと想定しています。

記者：滝沢ストリートフェスティバルについて、「市道向新田線」の開通時期はいつか、また、どのくらいの長さがあるのですか。

都市整備部長：開通時期は4月上旬を予定しています。全長については800メートルほどで、イベントを開催するのは400メートルほどです。

記者：「市道向新田線」整備の背景について、中心拠点開発に合わせた整備ということなのでしょう。

都市整備部長：中心拠点開発に合わせた整備となっております。

## 6 その他記者からの当日質問

記者：衆議院議員総選挙について、報道では自民党が圧勝という表現をされていますが、結果を受けてのご感想をお願いします。

市長：圧勝という表現にはなっていますが、この後の国政の安定を望んでいます。選挙戦で各候補者も訴えていましたが、この後の国政の安定につながってほしいと思っています。地方の思いも届くような国政になれば、と感じています。

記者：岩手二区で、小選挙区では鈴木俊一さんが当選されましたが、比例区では国民民主党の佐々木まことさんが当選され、新しい議員が誕生したことについては、どのように受け止めていますか。

市長：県内の衆議院議員の顔ぶれも大きく変わりました。鈴木俊一幹事長と、階猛さんは再選されました。ほかの顔ぶれは変わりましたが、今、岩手県が抱えている課題、地方が抱えている課題を発信してもらい、地方も含めて日本なのだということをアピールしていければ、と思います。それが、地方で暮らす皆さんが安心して暮らせるような生活環境を整えるきっかけになるのではと思っています。

記者：衆議院議員総選挙の結果に関して、期待感が大きいかな等、率直なご感想をお聞かせください。

市長：期待感は大きいですが、自分が市長に就任してから、岩手県全体で注視してきたこ

とがあります。1年間に生まれる子供の数についてです。昨年の始めには、5,000人を切ったという報道がありました。盛岡市が約1,480人。滝沢市も300人を切りました。紫波町、矢巾町は合わせて300人弱。盛岡広域でみると2,200人を超える子どもが生まれています。北上市は460人台、奥州市は440人台、花巻市、一関市は400人を切っています。1桁代の自治体については、令和5年から6年にかけて1自治体増え、4自治体に増えました。今、頑張らなければ、岩手の推進力が政治とうまく結びついていかないと考えています。地方の暮らしや地方自治のあり方について、どこで活力を生み、県と盛岡がどのような立ち位置で周辺市町村と連携をしていくのか、立ち止まっているわけにはいかないと考えています。これは政治とうまくリンクして、地方の在り方、地方で暮らす人たちにしっかりとスポットが当たるような政策、例えば高齢者の移動手段や、医療体系のあり方など、不断の努力をしていかなければならないと考えます。岩手県内の自治体も常に抱えている問題もありますし、県、国とともにしっかりと活力を作っていくこと。どのようにしてにぎわいや活力を作っていくか、滝沢市だけではできませんので、盛岡広域でしっかり協力していきたいと思います。今回、自民党の大勝ということではありますが、1票を投じた方々の民意がどこにあるのかをもっと深掘りして、国の在り方というのをしっかりと見せていただきたいと思います。

記者：来年度の予算編成について、どのような点を意識して組まれていますか。

市長：今後、滝沢で暮らす一人一人に安心感を与えられるような編成を考えているところです。子育て世代も高齢者も、事業展開している農業者や商工業者の皆さんの中でも、活力が生まれるような事業展開を目指して考えていければと思っています。